



(平成15年1月24日 富岡畦草撮影)



不夜城として眠ることのないこの街に、新たなランドマークが出現する。地下鉄日比谷線六本木駅南西に位置する六本木六丁目で行われているこの開発は、約17年をかけ、ついに完成する。開発の総面積は約11.6ヘクタール。その規模は、民間の開発では国内最大級の大きさを誇り、敷地内には、大規模オフィスビルやテレビ朝日、美術館、シネマコンプレックス、ホテルなどが併設される。それに伴って幹線道路や公園、広場等の公共施設も整備し、開発コンセプトである「文化都心の創出」を目指すという。「文化」の意味を調べると「社会を構成する人々によって習得・共有・伝達される行動様式や生活様式」とある。文字通り、地域住民との共存共栄で、この場所から新たな文化が生まれる予感がある。

(文:渡辺邦博)



(平成14年11月2日 渡部まなぶ撮影)

消えた街角：富岡畦草・記録の目シリーズ 昭和34年 テレビ時代の幕開け 麻布材木町に日本教育テレビ開局

もともと麻布台地の自然景観は、入り組んで起伏に富み景勝の地でもあった。そのため改修を重ねた現在の道筋にも、多く坂の名が残っている。また、谷戸には湧水を利用した大小の池泉庭園も見られた。
今回の地には江戸時代長州藩主、毛利氏の上屋敷が置かれていたという。その名残のような庭園がすぐ先にあつて、撮影したことがある。また、聞くところでは忠臣蔵で知られる赤穂浪士十人が、この地で自刃したらしい。
その跡地に、昭和二十年代中頃、四階建ての自治省の地方公務員研修宿泊所が設けられた。そして昭和三十年代に入り、テレビ放送が始まると、これを壊して日本教育テレビが開設された。それを引き継ぎ拡充されて、現在のテレビ朝日へと発展したわけである。
しかし今は、この地を含めた広大な地域が、再開発でまったく新しい街に生まれ変わろうとしている。久しぶりで訪ね、その変わりように圧倒された。
撮影に先立ち、昭和三十一年(九五七)の地図を元に、位置の固定を試みたが、とうの昔、都電は廃止され、町名変更で、この辺り麻布材木町、麻布霞町、日ヶ窪町、鳥居坂町の名も消滅して、すべての六本木の新区画と照合するようにひと苦労した。そのうえ、新道、高架道が建設されて、かつての町の面影はなく、路地を求めて逸巡した。
もはや古老は、そそり立つ超高層ビル群建設の躍動を、おろおろと見守るばかりである。

(昭和34年2月9日 富岡畦草撮影)

文 富岡畦草(とみおか けいそう) 日本写真協会、日本写真家協会、自然科学写真協会などの会員